



北の友愛

クラブ会報

No. 26

平成26年4月9日(水)

第 221 回例会

題字 秋葉猛 君

2013 - 2014年度

会長 立見 壽士
幹事 豊泉 洋一

事務局 〒370-0815
高崎市柳川町70 高崎ビューホテル内
TEL 027-330-6060 FAX 027-330-6061

例会 毎週水曜日
12時30分

E-mail takakita@k1.wind.ne.jp
URL <http://takakita-rc.org>

例会場 高崎ビューホテル 事務局員 横尾 真実

クラブテーマ 「和気藹々・そしてプラス思考」

2013 - 2014年度 RIテーマ

「ロータリーを实践し、
みんなに豊かな人生を」

Engage Rotary, Change Lives



本日のプログラム

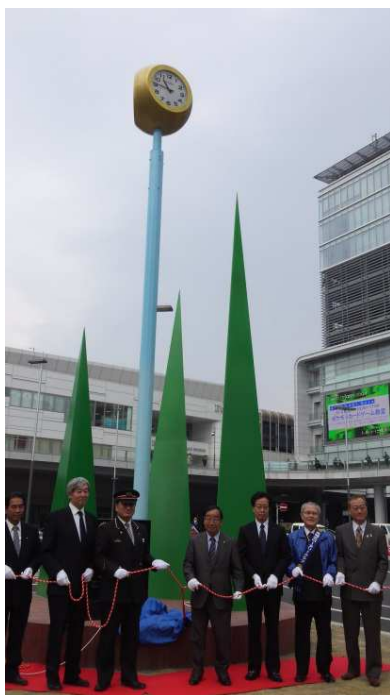
卓話 医療法人群馬循環器病院
院長 原田昌範様

ロータリーソング 君が代 奉仕の理想

高崎6RC 高崎駅東口時計塔寄贈

高崎6ロータリークラブが共同で、高崎駅東口駅前
広場に時計塔とモニュメントを製作し、3月18日に
除幕式を行いました。

このモニュメントの
名称は「上毛三山と
太陽の時計塔」で、
「上毛三山が太陽を
頂き未来を明るく照
らす高崎市の夢と
希望の象徴となる
時計塔」がテーマ。
時計塔を中心に、
高崎の中心部から
見た上毛三山の方向
と、山の高さ(赤城山
=1878m、榛名山=
1420m、妙義山=
1164m)が表現され
ています。



交換就学生のこと 横山祐次会員



横山祐次 会員

私が関わったのは4年間ほどでしたが、30数年を経て
今思うと楽しい思い出です。その期間に限って、思い
出しながら書いてみました。
若い人を交換して海外生活を経験してもらい、お互い
の理解を深め合うという交換留学生プログラムは国
際交流を綱領とする、ロータリーの思想を良くあらわ
した奉仕活動の一つだと思います。
しかし派遣するクラブも受け入れるクラブも(多くの場
合派遣と受け入れが同一クラブ)、かなりの準備と、各
種の負担を要するものです。
又ホストファミリーに取っても、外国の学生と数ヶ月の
間、家族として生活を共にするのですから、未経験の
ことも多く、その受け入れは大きな決断です。
言葉、宗教、食べ物など生活週間そして思考の違いな
どがあり、そのいずれも家庭のレベルでは大きな課題
です。
国際問題が家庭に入り込むこともあって、楽しい団欒

【出席報告】

会員数	71名
出席会員数	34名
当日出席率	53.97%
メイクアップ会員数	10名
前々回出席率	71.88%

2219回例会報告 2014年3月19日(水) 例会

【出席報告】

会員数	71名
出席会員数	33名
当日出席率	50.77%
メイクアップ会員数	8名
前々回出席率	66.15%

【委員会報告】・SAAーニコニコボックス

- ◆立見 壽士 君 ◆梅山 哲 君
「3月18日 高崎駅東口に設置された「上毛三山と太陽の時計塔」の除幕式に参加して来ました」
- ◆横山 祐次 君
「関崎さんの卓話、楽しみにしています」
- ◆稲川庫太郎 君
「関崎晴五新会員の初の卓話を楽しみにしております」
- ◆高山 秀男 君
「PETSに行ってきました。仲間ができました」
- ◆平田 稔 君
「SETSに行ってきました。勉強になりました」
- ◆島津 文弘 君
「FM群馬の300人合唱団に息子と参加しました。23日(日)夜7:00~ラジオで放送されます」
- ◆豊泉 洋一 君
「娘が希望高校に合格できました。発表までとあってのばしたヒゲをいざとなったら切るのがもったいなくなりました」 「ラッキー賞」
- ◆加藤 喜之 君
「商工たかさき載ってしまいました。一緒に走る方募集いたします」

	ニコニコBOX	お楽しみBOX
本日の合計金額	15,000円	3,038円
累計金額	903,000円	96,753円

次回例会予告

2013年4月16日(水)

新会員卓話

樋口哲雄会員

の場であるお茶の間が国際紛争の場になりかねません。留学生は必ず地元の高校に、1年間編入をお願いしておりました。部活や修学旅行その他の各種行事に一般学生と共に参加します。そんな中で男女を問わず沢山の、親しい友人が出来ますが、親しさが恋しさにも変わることもあります。当時は留学生の恋愛問題で心配されたホストもあったかもしれません。わが家でも失敗や、軽いトラブルなら幾つもあったと思います。

それでも、先に述べたように「楽しかった」との思い出として紹介できるのは、中心メンバー達の「子供をダシにして、大人も楽しもう」の考えがあって、工夫をしながらそれを実践したからではないかと想像します。

社会情勢も経済環境も、現在とは少し違っていたと思いますが、楽しくやらないと続かないよ、との思いがそれぞれにあった様に思います。

その「楽しさ」を支えるために少数の人が、見えなくて苦勞をしていた事が、うかがわれます。

交換留学を進める委員会は、頻りにミーティングを開きました。ミーティングといっても、会議などではなくて大抵は食事会です。つまり「食べて、喋って、ちょっと飲む」といった感じで、ホストファミリーが良く集まりました。だからホスト同志、お互いの連絡が良く取れるようになり情報交換が蜜になりました。家族も一緒ですから留学生と同世代の人たちは直ぐに親しくなりました。

これは3ヶ月単位でホストが変わる、留学生の不安の解消にも大いに役立ったことでしょう。

わが家では、留学生をお預かりする前にカナダから来ていた学生を、家族旅行に招待したことがあります。すでに娘がミーティングを通して、その学生と親しくなっていたので何の気負いも無く、それが出来ました。

つまり複数の家族が協力して、一人の留学生のお世話をするという形が、自然につくられていったのです。カウンセラーが、その間をうまく根回ししてくれて、病気や怪我、食事その他各種トラブルの可能性について助言をしてきていました。

実際、何事によらずカウンセラーが良く活躍していたと思います。自身も楽しみながらやっていたのかも知れませんが、プロジェクト推進のムードメーカーだった事は間違いありません。交換留学生プログラムは、クラブ全体で進める事業です。全員の協力が無いと結果的に上手くいかないと思います。

そのために委員会は、例会でよく活動の詳細を報告していました。今こんな留学生が来ていて、どこがホストをしているか。今後どんな計画があるか、次のミーティングはいつか、どんな趣旨でやるか等など。いつも原則全員参加だったと思います。

これはホストを孤立させないために大きな力となっていたようです。

今は時代も変わり高齢化、核家族化の時代でこの奉仕活動には過去に無い困難があるように思います。日本に来る学生の側にも、意識の変化があるかもしれません。だから過去の経験をそのままモデルにするにはリスクが伴います。しかし先輩たちが、しっかりとした責任感をもって大胆に「楽しさ」を演出したことは大いに参考になるものと思います。

資料の少ない状態で記憶を頼りに、書きましたが勘違いやもっと大事なことを書き落としているかもしれません。それらの責めは、ロータリアン諸氏の寛容さにゆだねて、この拙文を終わります。